

Ettan DIGE User's Day 2009

「プロテオーム解析のためのサンプル調製法

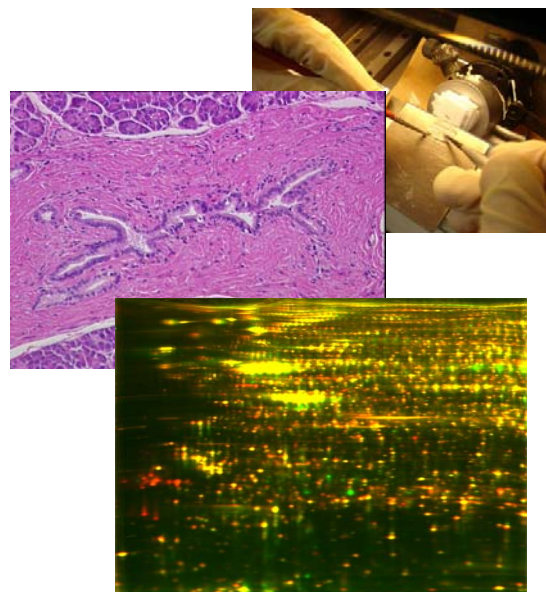
～あの人はどうしているのか?～

日時: 2009年12月8日(火) 13:00～(12:30受付開始)
 会場: 第一ホテル東京 5F ラ・ローズ (新橋駅より直結、徒歩2分)
 参加費: 無料(事前参加登録制)

2D-PAGE、質量分析、液体クロマトグラフィー、アレイなどのプロテオーム解析に用いられる技術は過去10年の間に長足の発展を遂げ、かつては考えられなかった感度、精度でタンパク質実験ができるようになりました。一方、情報が広く共有されるようになってくると、同じ手法・機材で実験をしても同じ結果が得られるとは限らないことも明らかになり、サンプル調製法の重要性が改めて認識されるようになってきました。タンパク質の複雑さを反映して、研究の目的、実験手法そして研究者ごとに最適と思われるサンプル調製法は異なります。サンプル調製法はプロテオーム解析においてもっとも難しく重要なステップとして知られています。

当セミナーではプロテオーム解析技術を駆使する研究者の方々お招きし、最新の研究成果とそこで使用されているサンプル調製法についてご講演をいただきます。また、昨年好評を博したパネルディスカッションも行います。参加者の皆様がサンプル調製について普段疑問に思っておられることをオープンに討議していただく場をご提供いたします。

当セミナーが参加者の方々の情報共有の場となることを願いつつ、ご参加のほどお待ち申し上げます。



プログラム

12:30～	受付開始
13:00～13:10	開会挨拶
13:10～13:50	招待講演① 「タイトル調整中」 国立がんセンター研究所 近藤 格 プロジェクトリーダー
13:50～14:30	招待講演② 「臨床検体の2次元電気泳動解析の現状」 聖マリアンナ医科大学大学院 医学研究科 生化学講座 生化学部門 加藤 智啓 教授
14:30～15:10	招待講演③ 「翻訳後修飾タンパク質解析におけるサンプルの調製法(特にヒトCSFサンプルの前処理について)」 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 東京都老人総合研究所 老化機構研究チーム 戸田 年総 研究副部長
15:10～15:30	休憩(コーヒープレイク)
15:30～17:00	パネルディスカッション 司会: 横浜市立大学生命ナノシステム科学研究科/先端医科学研究センター 平野 久 教授 パネリスト: 国立がんセンター研究所 近藤 格 プロジェクトリーダー 東京都老人総合研究所 老化機構研究チーム 戸田 年総 研究副部長
17:00～17:10	閉会挨拶
17:15～	懇親会

*プログラム内容は変更になる場合がございます。予めご了承ください。



GE imagination at work

【お問合せ先】
 GEヘルスケア・ジャパン株式会社
 マーケティングコミュニケーション 担当 松尾
 電話 03-5331-9334

Ettan DIGE User's Day 2009

「プロテオーム解析のためのサンプル調製法

～あの人はどうしているのか?～

参加登録お申し込みは下記より

www.gelifesciences.co.jp/btj/dige09.asp

お待ちしております!

- ※ お手数ですが参加者1名ずつご登録ください。
- ※ 定員になり次第、申し込みを終了させていただきますので予めご了承ください。
- ※ ご登録いただいた情報をもとに、e-mail・電話等で弊社製品の販売・関連製品・キャンペーン等に関する情報を提供させていただく場合がございます。
- ※ ご登録いただいた個人情報については、下記URLの弊社プライバシーポリシーに基づいて厳重に管理させていただいております。
弊社プライバシーポリシー <http://www.gelifesciences.co.jp/company/sitepolicy/index.asp>

【受講票について】 開催1週間前までにe-mailにてお届けします。

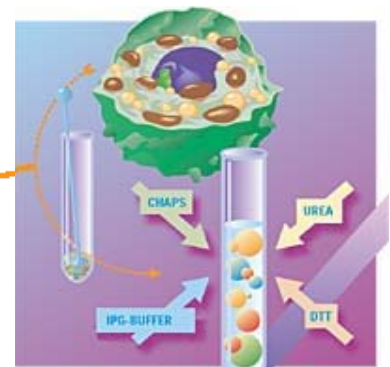
二次元電気泳動 ～実験操作の流れ～

* 「二次元電気泳動テクニカルハンドブック」(コード番号: 72-HB11-01)より

1. サンプル調製

高分離能を得るために、サンプルを変性し、完全に可溶化させます。

細胞抽出液などのサンプルをウレアや非イオン性界面活性剤、還元剤そしてIPG Buffer (キャリアアンフォライト) 存在下で可溶化させます。



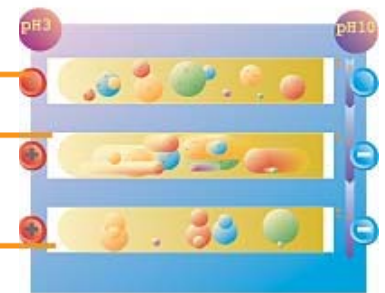
2. 一次元目の泳動: 等電点電気泳動

一次元目で、Immobiline DryStripの固定化pH勾配上で等電点の違いによって、タンパク質を分離します。

Immobiline DryStripゲルにはサンプルカップで泳動時にサンプルを添加するか、膨潤時にサンプルをゲル全体に均一に含ませることによって、サンプルを添加します。

電場をかけます。荷電を持つタンパク質は固定化pH勾配中を移動します。

タンパク質はpH勾配中でタンパク質自身が持つ等電点と等しいpHに到着すると、タンパク質の荷電は0となり、その端にとどまりバンドを形成します。また、ゲルのpH勾配は固定化されているため、高電圧下でも勾配が崩れることはありません。



3. 二次元目の泳動: SDS-PAGE

二次元目では濃度均一ゲルもしくは濃度勾配ゲルを用いて、分子量の違いによってタンパク質を分離します。

SDSとDTTを用いてImmobiline DryStripゲルのSDS平衡化を行います。



陰極側にSDS平衡化済みImmobiline DryStripゲルを置きます。

電場をかけます。負に荷電したタンパク質は陽極側へ移動します。

タンパク質は、分子量に依存して移動します。最も小さいタンパク質は、最も速く陽極側へ移動し、最も大きいタンパク質は最も遅く移動します。